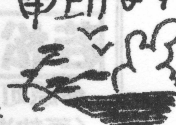


○インターネット「はらまち九条の会」検索で、本会活動や会報をご覧ください。

暑中お見舞い
申し上げます


九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.284

2016(平成28)年6月23日(木)発行



■「はらまち九条の会」は、戦争放棄の憲法第9条を護って「戦争をしない国・日本」をめざし、支持政党や主義主張を問わない自由な市民の会です。どなたでも、どこに住んでおられようと会員になります。匿名でもけっこうです。■結成は05年12月。会員は南相馬市原町区を中心に441名。年会費千円。■2011.3.11の大震災後、「事故の福島第一原発に世界一近い『九条の会』」を自覚し、「日本国憲法の間接的起草者憲法学者鈴木安蔵のふるさと」を誇りに活動しています。

南相馬市の『日本国憲法』冊子の全戸配布 会員の思いは

南相馬市は5月1日、市内全23,000戸に『日本国憲法』冊子を配布しました。これは昨年2月に、私たち「はらまち九条の会」など市内4つの九条の会が市議会に陳情したことの実現です。会員さんの感想を集めてみました。

配布した南相馬市を誇りに思います

○市議会に通るとは予想しなかった。実際に家庭に配布されて、初めてその重みを実感した。全国でも稀なことと思うので、南相馬市を誇りに思います。(原町区・浜名純隆さん)

○昭和40年代、「原町市憲法を守る会」が『憲法』の冊子を山田貢市長時代に実現させたことを懐かしく思い出します。今回南相馬市議会は、改憲をうたう保守自民系も全員一致で、半世紀ぶりに「憲法」全文を各戸に配布しました。冊子冒頭に「私たちの生活再建のため、「日本国憲法」を読もう」との市長メッセージが掲げられ、普段は政争の激しい故郷の政界が、困難な状況でよくぞ決断したと感激しています。(福島市・二上英朗さん)

○南相馬市当局が発行して全戸に配布したのに、市の広報の5・6・7月号にも、何の説明もない。市が発行した趣旨は何なのか、きちんと市民に伝えるべきです。(小高区・市民)



▲5月1日、全市に配布された『日本国憲法』。1971年旧原町市による発行以来、2度目の発行です。

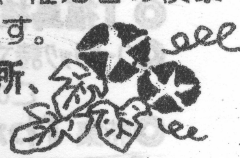
「九条の会」の皆さんの思いがこもっていて愛おしい いつも携帯しています

○「日本国憲法」小冊子は、私が委員長の総務常任委員会で審査。何故今なのか、市長挨拶を入れるのか等の質疑がありましたが、執行部の明確な答弁に全会一致で可決され、漸く全市民(全戸)に手渡されました。九条の会の皆さんの陳情から始まり、出来上がってみると、内容は分かっている、皆さんの思いがこもっているようで、なぜか愛おしささえ覚えます。必ずカバンに入れ携帯しています。(南相馬市市議・小川尚一さん)

<事務局より>○昨年2月に市議会に陳情し、「趣旨採択」になり、今年5月に全市全世帯への『日本国憲法』冊子が配布され、感激しています。大震災で人権が蔑ろにされ、政府自らにより憲法が蔑ろにされている今こそ、憲法を読み返してみたいものです。

○一部市民からは、「配布は無駄」という声もあるようですが、「憲法は、権力者の横暴から国民を守るもの」という「立憲主義」を、しっかり確認したいものです。

■隣組に加入していない市民、転入された方は、市役所本庁1階の総合案内所、または本庁3階の総務課でも、『日本国憲法』を受け取ることができます。



詩「神隠しされた街」などで50年来、〈核発電〉の不条理を訴える

若松丈太郎さん、NHK・Eテレビ「こころの時代」で紹介

◆原町区の詩人若松丈太郎さん（本会会員）が、NHK・Eテレビ6月12日（日）午前5時から（再放送18日（土）午後1時から）、聞き手詩人アーサー・ピナードさんとの1時間対談番組が放映されました。◆ご覧になった会員さんから、「若松さんが詩作を始めたきっかけもよく分かり、詩の紹介もあっていい番組でした。作品集を読んでみようと思います」との声が届いています。

番組の一部・要旨

＜ルーション＞南相馬市北泉海岸の風景から、若松さんが「みなみ風吹く日」を作ったのは、福島原発事故の19年前のこと。詩人の目には破局が見えていたかのようでした。若松さんは岩手県奥州市生まれ、福島大を卒業し高校の国語教師を勤め、詩作を続けてきました。

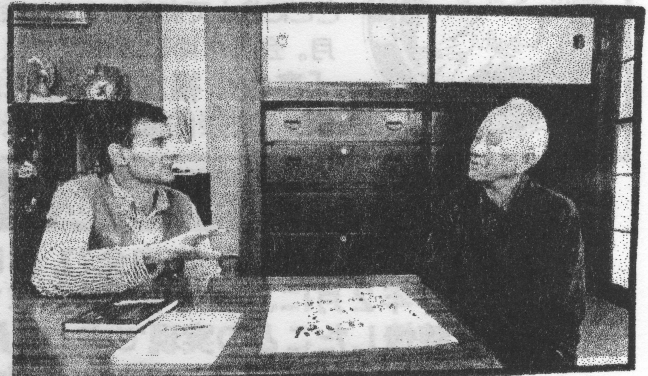
＜ピナードさん＞若松さんの原体験は？

＜若松さん＞1945年終戦の時私は10歳で、小学校で教科書の「墨ぬり」が原体験です。今まで正しいと言っていた人が、墨ぬりをさせる。子どもでも納得できず、そんな人にはなりたくないと思いました。

また中学生の時、出征した叔父が残したリンゴ箱から、金子光晴の詩集に会い、『鮫』の冒頭の詩「おっとせい」にショックを受けました。皆同じ方向を見ているオットセイですが、ただ1匹反対方向を見ているオットセイもいて、ああこういう生き方をしてもいいんだなと思いました。

＜ピナードさん＞1971年福島原発が稼働の時、仙台の新聞に大熊町ルポを寄稿していますが。

＜若松さん＞原発を見学し、東京電力がなぜ東北に作るのか、原発も人間も怪物だとうとうもない違和感や、文明の崩壊を招く一つの大きな要因になるだろうと感じました。



▲テレビ画面のピナードさんと若松丈太郎さん。若松さんの自宅ですが、左手の茶だんすの上には、5月に市が全戸に配布した『日本国憲法』冊子が大切に飾られていました。

＜ルーション＞事故から8年後のチェルノブイリを訪問し、目の前の現実と17年後の福島を予見したかのような「神隠しされた街」を発表しました。

＜ピナードさん＞震災後、相馬市の酪農家の自殺から、農民や酪農家の悲惨さを思い「ひとのあかし」を書かれ、私が英訳し共著で出版しました。

＜若松さん＞原発事故で最悪の事態が起き、前に見た風景が今南相馬市でも繰り返されています。原発は後の世代にも大きな課題を残し、自分たちの文明はどうなっていくのかと不安です。

□6月30日の『朝日新聞』「はがき通信」には、「この番組を見られて、何という幸運でしょう！誰も住まなくなった福島映像に重なり、心に染みしました。「ひとのあかし」を奪った負債をだれが払うのでしょうか。」（東京都・主婦・74歳）という感想も掲載されていました。

＜若松丈太郎さんの著作＞ ◎印が、現在お求め易い著作です。

- 詩集『夜の森』1961年・自家版・福島県文学賞受賞
- 詩集『海のほうへ 海のほうから』1987年・花神社・福田正夫賞受賞
- 『日本現代詩文庫Ⅱ-③ 若松丈太郎詩集』1996年・土曜美術社出版販売
- 詩集『いくつもの川があって』2000年・花神社・福島民報出版文化賞受賞
- 詩集『年賀状詩集』2001年・自家版
- 『イメージのなかの都市 非詩集成1』2002年・ASYL社
- 詩集『越境する霧』2004年・弦書房 ○詩集『峠のむこうと峠のこちら』2007年・自家版
- 詩集『北緯37度25分の風とカナリア』2010年・弦書房・¥2,000+税
- 『福島原発難民』2011年・コールサック社・¥1,428+税
- ◎アーサー・ピナード 英訳・共著詩集『ひとのあかし』2012年・清流出版・¥1,700+税
- ◎『福島核災難民』2012年・コールサック社・¥1,800+税（加藤登紀子「神隠しされた街」のCD付）
- ◎コールサック詩文集『若松丈太郎詩選集130篇』2014年・コールサック社・¥1,500+税
この本が、三名の方の解説文で作品がよく理解でき、一番のお薦めかと思えます。
- ◎詩集『わが大地よ、ああ』2014年・土曜美術社出版販売・¥2,300+税



□若松さんの作品について、本会報のNo.165・174・196・203・212・239・259でも紹介しています。インターネット「はらまち九条の会」検索・「会報誌」でご覧になれます。